

新型コロナウイルス対応における個人防護具等使用節約の手引き

日本国内の新型コロナウイルス感染症（以下、**COVID-19**）の各地集団発生による患者増加に伴い、全国の医療機関で感染対策への注力が高められており、感染対策に必要な個人防護具（以下、**PPE**）資材等の不足が深刻な状況となっています。当面の間、完全な資源枯渇を防ぐために下記の内容を参考に **PPE** 資材の効率的な活用をお願いいたします。

また、大阪府からの **PPE** 資材の配布は、厚生労働省及び内閣官房情報通信技術（**IT**）総合戦略室医療機関調査事務局により行われている **Web** 調査を元に算出しますので、システムへは滞りなく入力をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症対策に係る病院の医療提供状況等の状況把握について（協力依頼）：

<https://www.mhlw.go.jp/content/000616507.pdf>

新型コロナウイルス感染症対策に係る病院の医療提供状況等の把握等について調査項目一部変更のお知らせ（その2）：<https://www.mhlw.go.jp/content/000626699.pdf>

物資支援の依頼は、下記の使用節約の項目を可能な限り遂行した上で、最低必要量として算出してください。

なお、本手引きに記載の内容は使用制限を強制するものではなく、参考としてお示しするものであり、各病院様の判断によりご検討いただきますようお願いいたします。

突発的なクラスター発生などによる患者の急増などの場合は、追加支援を検討しますのでご連絡ください。

☆基本的事項☆

- Ⅰ **COVID-19** 感染患者（以下、陽性患者）は適切にコホーティングしてください。
- Ⅰ **PPE** 資材が枯渇しないよう、無駄遣いにならないように注意してください。
- Ⅰ **COVID-19** 感染が疑われる患者（以下、疑い患者）については、陽性患者と接触が無いよう十分留意してください。
- Ⅰ 厚生労働省（令和2年4月10日事務連絡）**N95** マスクの例外的取り扱いについて：
<https://www.mhlw.go.jp/content/000621007.pdf>
- Ⅰ 厚生労働省（令和2年4月14日事務連絡）：サージカルマスク、長袖ガウン、ゴーグル及びフェイスシールド、の例外的取扱いについて：<https://www.mhlw.go.jp/content/000622132.pdf>
- Ⅰ 国立感染症研究所：状況、職種、活動種類に応じた **COVID-19** 流行時における **PPE** の使用例：
<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/corona/2019nCoV-01-200427tbl.pdf>
等をご確認いただき、各病院様にて再利用等の検討をお願いします。
- 陽性患者又は疑い患者に接する職員は最低限度とし、接触しない職員（事務員等）は、布マスク等
で対応してください。また、受付はビニールシート等で区切る等の感染防御策を講じてください。

【サージカルマスク】

1. **COVID-19** 病棟に出入りする職員は病棟を退出する毎に交換してください。
(陽性患者ごとには交換しないようお願いいたします。)
2. 疑い患者を対応した場合は、患者対応ごとに交換してください。
(次に対応する患者が陽性患者の場合は交換しないようお願いいたします。)
3. 陽性患者または、疑い患者以外の患者に接する職員は、複数の患者を診察・検査等する場合であっても、同一のサージカルマスクを継続して使用してください。
使用枚数は、在庫量を確認しながら、1人当たり1日に1枚程度としてください。

<サージカルマスクの継続使用に係る注意点>

- い 目に見えて汚れた場合や損傷した場合は、廃棄してください。
- い サージカルマスクを外す必要がある場合は、患者のケアエリアから離れてください。
- い サージカルマスクを外す際には、マスクの外面を内側にして折りたたみ、接触感染を避けてください。

【N95 マスク】

1. **N95** マスクについては、陽性患者においてエアロゾルが発生するおそれのある手技を行うとき（例：気管内吸引、気管内挿・抜管、下気道検体採取等）の使用を推奨しており、それ以外の診察等の場面では、サージカルマスク等を適切に使用してください。
2. **N95** マスクは「**N95** マスクの例外的取扱いについて」を参考に可能な限り再利用に努めてください。
(<https://www.mhlw.go.jp/content/000621007.pdf>)
3. **N95** マスクの在庫が少なくなった場合には、**N95** マスクの上にサージカルマスクを装着し、患者対応ごとにサージカルマスクを交換してください。
4. 必要な場合は、有効期限に関わらず利用し、また、**KN95** マスクなどの医療用マスクも**N95** マスクに相当するものとして取り扱い、活用するよう努めてください。

<N95 マスクの継続使用に係る注意点>

- い 目に見えて汚れた場合や損傷した場合は廃棄してください。
- い 素材により適用可能な滅菌方法等は異なるためご検討ください。
- い なお、アルコール消毒は **N95** マスクの粒子捕獲メカニズムを低下させることがあるため、避けた方がよい。

【ゴーグル/アイシールド/フェイスシールド】

1. 複数の患者を診察する場合には、同一のゴーグルやフェイスシールドを継続して使用してください。
2. ゴーグルやフェイスシールド（ディスポ製品を含む）についても、可能な限り再利用してください。なお、再利用の際には、適切な洗浄及び消毒を確実に行ってください。
3. **COVID-19** 病棟に出入りする職員は陽性患者ごとには交換せず、病棟を退出する毎に交換してください。（ただし汚染した場合は交換してください）
4. 疑い患者を対応した場合は、患者対応ごとに交換してください。
（次に対応する患者が陽性患者の場合は交換しないようお願いします。）

＜フェイスガード等の継続使用に係る注意点＞

- ① 目に見えて汚れた場合は、洗浄及び消毒を行ってください。
- ② 一度外した場合には、再度装着する前に洗浄及び消毒を行ってください。
- ③ ゴーグルやフェイスシールドが損傷した場合（ゴーグルやフェイスシールドがしっかりと固定できなくなった場合、視界が妨げられ改善できない場合など）は廃棄してください。
- ④ ゴーグルやフェイスシールドを外す必要がある場合は、患者のケアエリアから離れてください。

＜ゴーグル及びフェイスシールドの洗浄及び消毒方法＞

メーカー等の指示がある場合はその指示に従い、指示がない場合等は以下の手順を参考としてください。

- (1) 手袋を装着したままの状態、ゴーグルやフェイスシールドの内側、次に外側を丁寧に拭いてください。
- (2) アルコール又は **0.05%**次亜塩素酸ナトリウム水溶液を浸透させたペーパータオルやガーゼ等を使用して、ゴーグルやフェイスシールドの外側を拭いてください。
- (3) **0.05%**次亜塩素酸ナトリウム水溶液で消毒した場合、ゴーグルやフェイスシールドの外側を水又はアルコールで拭き、残留物を取り除いてください。
- (4) 清潔な吸収性タオルを用いて吸水することなどにより、良く乾燥させてください。
- (5) 手袋を外した後は、手指の衛生を行ってください。

【キャップ】

1. 陽性患者または、疑い患者以外の患者に接する職員は可能な限り再利用してください。
2. **COVID-19** 病棟に出入りする職員は陽性患者ごとには交換せず病棟を退出する毎に交換してください。
（ただし汚染した場合は交換してください。）
3. 疑い患者を対応した場合は、患者対応ごとに交換してください。
（次に対応する患者が陽性患者の場合は交換しないでください。）

※ 現時点では、府では確保していません。各自病院で対応をお願いいたします。

【長袖ガウン（アイソレーションガウン・長袖のプラスチックガウン等）】

※ 一般病棟の MRSA、ESBL 産生菌、CDI に関して長袖ガウンは使用せず、ビニールエプロン（腕無）＋手袋＋手指消毒で接触感染予防策を行ってください。

1. 陽性患者に限らず、血液など体液に触れる可能性のある手技、開放創、エアロゾルが発生するような手技（気道吸引、気管内挿管、下気道検体採取等）、重度下痢＋全介助、集中治療部門の上記感染症、他重要な耐性菌（MDRP、MDRA、CRE、VRE 等）、ウイルス感染症については長袖ガウンを使用してください。

（各病院様の院内感染防止マニュアル等に準じてください。ただし、PPE 資材の仕様は最低限としてください）

2. コホーティングされた複数の陽性患者を診察・検査等する場合には、同一の長袖ガウンの継続使用を検討してください。なお、長袖ガウン（袖のないエプロンを含む。）は、コホーティングされた場所を離れる際に脱衣してください。
3. 疑い患者に接する場合は、患者ごとに交換してください。ただし、次に対応する患者が陽性患者の場合は交換しないようお願いします。

○ レインコート、レインポンチョを使用する場合

- ① 「つなぎ」型の防護服を装着し、そのうえに着用してください。
- ② コホーティングされた複数の陽性患者に対応する場合は着替えしないでください。
（ただし、汚染された場合は交換してください）
- ③ 疑い患者に対応する場合は、患者ごとにレインコート・レインポンチョのみを着替えてください。
- ④ レインポンチョの場合は、腕が汚染されるおそれがあるため、肘まであるような手袋を着用するか、ポリ袋等により、腕を防御できるようご検討ください。

※ 長手袋については、確保に努めていますが、現時点では確保できていません。ホームセンター等で小ロットであれ血入手可能ですので、当面の間は各自でご対応をお願いします。

【手袋】

1. 血液、体液、分泌物、排泄物、創傷、粘膜などに接触する場合、侵襲的処置を行う場合、汚染の疑われる周囲に接触する場合、MRSA、ESBL 産生菌、CDI、重度下痢、他重要な耐性菌（MDRP、MDRA、CRE、VRE 等）、ウイルス感染症（ウイルス性胃腸炎、新型コロナウイルス）の患者に対応する場合は、1 患者ごとに交換してください。
2. ラテックス製やプラスチック製等のグローブは洗浄等により可能な限り再利用してください。
3. 必要に応じ、医療用グローブの上にポリエチレン製の手袋を装着するなどによりご対応をお願いします。

※ 現在、府でも確保に向け動いているところですが、各病院さまとも、確保策を継続してご検討ください。

【アルコール性手指消毒液】

1. 手指消毒液は、患者対応後、手洗いを行ったあと、**1プッシュのみ**使用するようお願いいたします。
2. 陽性患者及び疑い患者以外の患者に直接接触する場合、手袋は使用せず、患者対応ごとに手指消毒を行うようお願いいたします。
3. その他職員は極力使用しないようお願いいたします。

※ 手指消毒用アルコール製剤ではなく、無水エタノールや **70%**エタノールなどが供給される場合があります。適宜、希釈やグリセリンを添加するなどにより手指消毒用に院内製剤により調製してください。

※ 手指以外の非腐食性の物品等の消毒に関しては、**0.05%**次亜塩素酸ナトリウム水溶液などを活用してください。

(参考)

「新型コロナウイルス対策 身のまわりを清潔にしましょう。」(厚生労働省啓発資料)

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000614437.pdf>

【検体採取用スワブ】

※ コパン社製 **FLOQ** スワブは、一時的な需要増と製造元からの供給が滞っており、手に入りにくい状況となっています。ただし、検査には、ニプロ社製のものや日本綿棒社製のものを使用することができますので、在庫が少なくなった場合には、他社製のものへの変更等のご検討をお願いします。

【その他】

※ 手術用ガウン、グローブ等の資材に関しても、製造元からの供給が滞っており、一時的に手に入りにくい状況となっています。使用量をできる限り制限していただくとともに、他社製の同等品又は販売業者の調整等の検討をお願いします。

大阪府 健康医療部 保健医療室 医療対策課
新型コロナウイルス感染症対策 物資班
新型コロナ受入病院支援チーム 物資設備調整担当